F/T09 フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE 世田谷パブリックシアター SETAGAYA PUBLIC THEATRE

『神曲　地獄篇/煉獄篇/天国篇』　三部作
ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ
演出：ロメオ・カステルッチ【イタリア】

地獄篇　12 月 11 日（金）～13 日（日）　於：東京芸術劇場　中ホール

煉獄篇　12 月 19 日（土）～21 日（月）　於：世田谷パブリックシアター

天国篇　12 月 17 日（木）～21 日（月）　於：にしすがも創造舎

© LUCA DAL PIA

08 年アヴィニョン演劇祭で初演され、世界を震撼させ続ける
ロメオ・カステルッチの『神曲』、堂々の三部連続上演！

地獄篇/天国篇　お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局　http://festival-tokyo.jp/
〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1　NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内　TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207
制作：ハッセル、タラ・石塚　t-hassel@anj.or.jp、植松侑子　y-uematsu@anj.or.jp

煉獄篇　お問合せ　世田谷パブリックシアター
〒154-0004　東京都世田谷区太子堂 4 丁目 1 番地 1 号　世田谷パブリックシアター　TEL:03-5432-1526（代表）
広報担当：宮村　k-miyamura@setagaya-ac.net

作品について

F/T09 春で代表作『Hey Girl !』を上演し、日本でも一躍注目を集めているイタリアの異才、ロメオ・カステルッチ率いるソチエタス・ラファエロ・サンツィオ。続く F/T09 秋では、世界を震撼させ続ける大作『神曲―地獄篇、煉獄篇、天国篇』を堂々の三部連続上演！

イタリアの異才、カステルッチとソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

イタリアの異才アーティスト、ロメオ・カステルッチ率いるソチエタス・ラファエロ・サンツィオは、1981 年、ロメオ・カステルッチ、クラウディア・カステルッチ、キアラ・グイディによって設立されたアーティスト集団である。グループ名はイタリア・ルネサンス期を代表する画家ラファエロ・サンツィオにちなんで命名され、演劇、美術、音楽、身体表現、文学など、あらゆる芸術ジャンルを横断しながら独自の舞台言語を創造、展開してきた。

一度観たら忘れられない強烈なイメージと比類なき造形美、“生”の力強さや残忍さ、人間存在のゆらぎをも舞台空間に出現させる圧倒的な力は、ヨーロッパのみならず世界中からも大きな称賛を受け、現在の世界のアートシーンを牽引するグループの一つに数えられる。

ダンテの『神曲』からインスピレーションを得た、今日の地獄、煉獄、天国とは ―

08 年アヴィニョン演劇祭のアソシエート・アーティストに任命されたカステルッチが挑んだのは、出身国イタリアで、イタリア文学最大の詩人とされ、ルネサンスの先駆としても大きな足跡を残したダンテによる『神曲』だった。「『神曲』を上演することは、不可能なプロジェクトに違いない」としながらも、カステルッチは、ダンテの『神曲』の解説や舞台化を志すのではなく、自らがダンテ自身になることによって、この壮大な古典に向き合う。

過去の傑出した作品をこの時代に置き換える試みは「記念碑をたたえる葬儀のようなやり方である」と語るカステルッチが、敢えて今『神曲』に挑むのは、そこに我々の時代にも属する力、普遍性を見出したからである。

鮮やかで強烈な想像力を持って、カステルッチは「神曲」を今日の形而上学として再構築する。

劇 評より (2008年アヴィニョン公演)

この作品によって引き起こされた深い心の混乱を述べるのに、何から始めればよいのだろうか―。
カステルッチはダンテの「神曲」をなぞるのではなく、自らの「神曲」を創造する。

(ル・モンド紙、2008年7月17日)

暴力と恐怖に支配された地獄篇は、情熱、有為転変、苦悩といった我々人間が逃れることの出来ない宿命を吟味するための瞑想に変貌を遂げた。

(レ・ザンロキュプチブル誌、2008年7月15-21日号)

終演と共に苦痛は劇場から去り、まぶしいアヴィニヨンの太陽は観客達に人生や身体を取り戻させ、騒々しい日常を連れて来る。しかし観客は「神曲」の長い旅によってもたらされた衝撃と存在への問いに、これからも繰り返し何度も向き合うことになる。
ロメオ・カステルッチは、私たち人間の奥底にある真実を発見させる。

(ラ・クロワ紙、2008年7月16日)

ロメオ・カステルッチは荘厳なイマージュによって我々ののどを締め付ける。彼は我々に何も指し示さず、何も言わない。しかし我々は全てを知ることができ、そして痛みと恐怖、虚構と現実のはざまに漂い続けることから生まれる懐疑に捕らわれる。彼は、強烈で衝撃的な作品を我々に届けた。なんという崇高さ、恐ろしさだろう。

(ル・ソワール紙、2008年7月13日)

ロメオ・カステルッチは、上演不可能と言われていた作品の演出に当たって、原典を説明するという問題を超越することを作品の核とした。それがカタルシスをもたらしている。カステルッチは、圧倒的な、普遍的なイメージを生み出した。

(ラ・マルセイエーズ紙、2008年7月9日)

地獄篇　INFERNO

今日の「地獄」を生きる人類の肖像画

第一部の『地獄篇』は、2008 年アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として、ローマ法王庁中庭の特設劇場にて上演された。

「地獄」は死者が生きているうちに犯した罪により、救われることのない永劫の責め苦にあえぎ続ける場所。かつてダンテが自分の生きている世界の「地獄」を見ながら、自らを物語に登場させて読者に地獄の描写を見せたように、カステルッチも創造の危険性と責任を背負った芸術家、ロメオ・カステルッチ本人として舞台に登場する。

突然投げこまれた暗黒の森で、疑問と不安、苦痛、恐怖と向き合うアーティストは、自らの犯した罪とは何か、その裁きとは何かを問いかける。ルネッサンスの図像から得られたジェスチャーとモチーフをちりばめながら、次から次へと提示される美しくも悪夢のような情景。それは、観客一人ひとりの経験や思い出と共振し、見るものの感情、感覚、衝動に深く刻み付けられる。

総勢 50 名にもおよぶ現地エキストラや、舞台上に出現する様々な生命、死、そして破壊と暴力の彼方に、今日の「地獄」での果てしない問いかけが舞台を満たす。

© LUCA DEL PIA

煉獄篇　PURGATORIO

日常に潜む「煉獄」。おぞましくも美しい残像

第二部の『煉獄篇』では、典型的なブルジョワ家庭のサロンが舞台となる。先の「地獄」そして「天国」には時間の概念が存在しないが、悔悛の念を持つ死者が自らの罪を贖い、魂を清める場所である「煉獄」には唯一、時間が存在する。70 年代を思わせる家庭のセット。夕食の準備をする若い母親、頭痛を抱える子供、そして仕事から帰宅する父親。恐ろしいほどに美しく完成されたハイパーリアルな舞台には影がない。

退屈に思えるほどありふれた家庭内の描写がたんたんと続いた後、どこにでもある家族の風景は家庭内暴力により一変する。『煉獄篇』では、旧約聖書やキリスト教の文化に頻出するテーマのひとつ、息子を生贄にするという儀式が持ち出される。耳をふさぎたくなるような悲痛な叫び声の中で、罪を浄化されるのは、この家族か、それとも観客か。

カステルッチにとっての「煉獄」は繰り返されている日常生活の罠にはまること、その現実の中でさまようことであるという。日常に潜む煉獄のおぞましくも美しい光景が、見る者の心に強烈な残像を残す。

© LUCA DEL PIA

天国篇　PARADISO

「天国は」存在するのか？　果てしなき問い

第三部の『天国篇』は、ライブ・インスタレーションの形式をとっており、観客は一人ひとりが孤独に作品と向き合うことになる。それはまるで鏡に映る自分の姿を見るようでもある。原作では「天国」は神の究極の愛、光へと近づくための旅の章であるが、カステルッチの「天国」は否定的な光である。水を大量に使用した巨大なブラック・ボックスの中に入った観客は、暗闇に目が慣れるにつれ、ゆっくりとその姿を見ることができる。しかし「これは一番残酷な篇だと思う」とカステルッチ自身が語るように、そこには、人間は決して天国に歓迎されないという世界観が示されている。

演出ノート

ロメオ・カステルッチ

私が探究し実践している演劇は、決して、既にあるものの読解でも解説でもない。私は物質の中に、エネルギーのライン、完全な存在を探し求める。その存在により私は、時間や空間から解き放たれ静止したイメージを通じ、感情のレバーに働きかけることができる。それらは私が創造したイメージではない。私はこれから、そして今までも、地面を叩いてイメージが私を見つけるのを待っているだけだ。自分を超えることは、私にとってある種の保障となる。

「神曲」（を上演すること）は、確かに不可能なプロジェクトに違いない。この物語の偉大さは文学を超越しており、演劇の分野においては空回りしているといえる。しかしこの不可能さを通ることによって、全ての可能性に手が届くのだ。
“ché la diritta via era smarrita”
（ダンテ『神曲』「地獄篇」第一歌冒頭より引用：正しき道を見失ってしまった、の意）
そう、あらゆる可能性は実体化され、絶対的な自由を現実的な過ちとしてもたらしてくれるのだ。しかし、過ちは、それが対峙する法則、普遍的な物事の極限との関係において、その力を発揮する。法則なきエネルギーには形がなく、そこにあるのは強度と持続性だけだ。この極限こそが、今日、「神曲」なのだ。

その意味において、ダンテであること。ダンテの未知への旅立ちへのアプローチを具現化すること。この傑作が、あたかもこれまで一度も書かれず、語られなかったかのように語ること。自分自身を愚かさにさらけ出す、その責任を受け入れること。ダンテとしてふるまうこと、ダンテの作品ではなく、ダンテであること。

その探究の旅は、この芸術家にとっての罪の観念、「暗黒の森」から始まる。彼の罪、この芸術家の失敗とは何なのか？　彼の作品？　作品の創造とは、暗黒の中を彷徨うことを意味するのだろうか？　あるいは暗黒そのものを生み出すということなのか？　この暗黒は光へと導かれるのだろうか？　もしそうであれば、それはどうやってなされるのか？　なぜダンテは、旅の冒頭で暗黒の森にいたのか？　別段理由もなく、単にそういうことだった・・・私たちには知る由もない。弁解の余地なき点。あらゆる芸術作品の原点：動機の不在。

今、これらの言葉の領域に深く踏み入る必要性がある。地獄、煉獄、天国。
地獄、煉獄、天国。これらは私に、今、何を求めているのか？
これらは日常のどこにあるのだろうか？私にとって、あなたにとって。
これらは日常のどこに潜んでいるのか？
地獄はどこにあるのか？　ありふれた日曜日の午後、4時に煉獄はどこにあり、どのようなものなのか？
毎分、天国は、部屋のどこに存在するのか？
なぜ、それらは、すでに裁きのように見えるのか？
そして、何を裁こうとしているのか？
私たちの人生の孤独、あるいは人類の？　芸術家、それとも人間としての私の失敗、あるいは嘆願？　それとも、機能不全な今日の生活を特徴づける新しい政治的、宗教的役割の中において、一日中観客でいるという、地獄行きの裁きをすでに宣告された、あなた方、観客の？

原作のあらすじ

『神曲』(La Divina Commedia)は、1307 年～1319 年にかけて、ダンテ・アリギエーリにより執筆された全 14233 行の韻文による長編叙事詩である。

「久遠の女性」として慕うベアトリーチェが 25 歳の若さでこの世を去ったことに失望したダンテは自堕落な生活を送り、西暦 1300 年の聖金曜日、暗い森の中に迷い込む。谷底へ向かおうとするダンテの前に、ベアトリーチェからダンテを救うように頼まれたという古代ローマの詩人ウェルギリウスが現れ、ダンテは彼に導かれ死後の世界を遍歴して回る。

「この門をくぐる者は一切の希望を捨てよ」と刻まれた門を抜けると、そこは地獄であった。そこはかつては全天使の長であったルシフェルが神に叛逆し、地上に堕とされてできた大穴。亡者はそこで、犯した罪により「辺獄」、「愛欲」、「大食」、「貪欲」、「憤怒」、「異端者」、「暴力」、「悪意」、「裏切り」に振り分けられ、永劫の責め苦にあえぐ。

9 つの地獄の階層を抜け、ルシフェルの幽閉されている領域まで至ると、地球の対蹠点に抜け煉獄に辿り着く。煉獄は、死の間際に自らの罪を悔いて地獄に落ちることを免れた死者が、清められるべき 7 つの大罪 (傲慢、嫉妬、暴食、色欲、怠惰、貪欲、憤怒)を山を登りながら贖う場所である。煉獄の山頂でダンテはウェルギリウスと別れ、ベアトリーチェの導きで天界へと昇天する。

天国へ入ったダンテは各々の階梯で様々な聖人と出会い、高邁な神学の議論を共に展開する。聖人たちの神学試問を経て、天国を上へ上へと登りつめるダンテ。遂に天国でも最上階に当たる至高天に行き着いたダンテは、天上の純白の薔薇を見、この世を動かすものが神の愛であることを知る。

アーティスト・プロフィール

© Società Raffaello Sanzio

ロメオ・カステルッチ　Romeo Castellucci
ソチエタス・ラファエロ・サンチオ主宰・演出家

1960 年チェゼーナ出身。ボローニャの美術学校で美術とセノグラフィを学んだ後にカンパニーを結成。90 年代の、歴史と悲劇を主題とした作品群（『ハムレット』92 年、『オレステア』95 年、『ジュリオ・チェザーレ』97 年、『創世記』99 年）によって、その名を国際的に知られるようになり、高い評価が確立した。01 年から 04 年にかけてなされた『トラジェディア・エンドゴニディア』シリーズでは、ヨーロッパの 10 都市（チェゼーナ、アヴィニョン、ベルリン、ブリュッセル、ベルゲン、パリ、ローマ、ストラスブール、ロンドン、マルセイユ、最後に再びチェゼーナ）において、著名な劇場やフェスティヴァルとの共同制作によって 11 のエピソードを上演した。
アヴィニョン演劇祭ではかねてから常連であったが、08 年にはアソシエート・アーティストとして、ダンテの『神曲』に着想を得た三部作（『地獄篇』、『煉獄篇』、『天国篇』）を一挙に発表するとともに大きな成功を収め、その才能に揺るぎがないことをあらためて見せつけることとなった。

主要な上演作品 および 受賞歴

92 『ハムレット』 Hamlet
94 『ブケッティーノ』 Bucchettino
95 『オレステイア』 Oresteia　　モントリーオル・アメリカ演劇祭 最優秀国際作品賞（97）
97 『ジュリオ・チェザーレ』 Giulio Cesare　　ユビュ賞・年間ベストパフォーマンス賞（97）
99 『創世記』 Genesi　　プレミオ・ヨーロッパ「新しい演劇のリアリティ」賞（00）
99 『夜の果てへの旅』 Voyage au bout de la nuit　　ダブリン演劇祭最優秀国際作品賞（00）
00 『イル・コンバッティメント』 Il Combattimento
01-4 『トラジェディア・エンドゴニディア』 Tragedia endogonidia　　ユビュ賞・特別賞(04)
06 『ヘイ・ガール！』 Hey Girl!
08 ダンテ神曲 3 部作 『地獄篇』 Inferno, 『煉獄篇』 Purgatorio, 『天国篇』 Paradiso

カンパニー・プロフィール

ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ

81 年に、ロメオ・カステルッチ（演出）、クラウディア・カステルッチ（作家、姉）、キアラ・グイディ（ドラマトゥルク）によって、彼らの生まれ故郷、イタリアのエミリア・ロマーニャ地方にある都市チェゼーナで結成された（ラファエロ・サンツィオはダ・ヴィンチやミケランジェロと並んでイタリア・ルネサンス期を代表する画家で「聖母の画家」との異名をとったラファエッロのことである）。その舞台の特徴は、絵画的な額縁舞台を生かして提示される造形性、人を不安にさせずには置かないほどのその完成度、そこに凝縮して込められた隠喩的あるいは寓意的な意味、さらにスコット・ギボンスによるこれまた独特の音響世界にある。06 年に制作された『Hey Girl!』以降、クラウディア・カステルッチやキアラ・グイディはそれぞれ独自の道を歩み始め、ロメオ・カステルッチが単独で作品創作を手がけるようになった。キアラ・グイディはスコット・ギボンスとのコラボレーションを続けながら、声の専門的なクラスを開いている。神奈川芸術文化財団にて日本語版の『ブッケティーノ』の再演の演出もした。クラウディア・カステルッチは「ストア」というリズムとムーヴメントの学校に注力している。

キャスト/スタッフ

アリギエーリ・ダンテ作『神曲』から自由に着想した三部作－地獄篇、天国篇、煉獄篇

作　ロメオ・カステルッチ　Romeo Castellucci

共同製作　ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ　Socìetas Raffaello Sanzio
アヴィニョン演劇祭　Festival d'Avignon
ル・マイヨン・ストラスブール劇場　Le Maillon-Théâtre de Strasbourg
ポワチエ・オーディトリアム劇場　Théâtre Auditorium de Poitiers – Scène National
ディジョン・オペラ座　Opéra de Dijon
バービカンバイト 09（ロンドン・スピル・フェスティバル 2009）　barbicanbite09, London as part of Spill Festival 2009
デ・シングル　deSingel
クンステン・フェスティバル・デザール　Kunstenfestivaldesarts
ド・ムント/ラ・モネ国立劇場　De Munt/La Monnaie
アテネ・フェスティバル　Athens Festival
ＵＣＬＡライブ/ロサンゼルス　UCLA Live / Los Angeles
ラ・バティ/ジュネーヴ・フェスティバル　La Batie – Festival de Genève
エミリア＝ロマーニャ州演劇財団　Emilia Romagna Teatro Fondazione
ナム・ジューヌ・パイク・アート・センター　Nam June Paik Art Center
欧州文化首都 09 年：ビリニュス、シレノス・ビリニュス国際演劇祭　European Capital of Culture 09, Vilnius International Theatre Festival Sirenos
カンカルイェヴ・ドン　Cankarjev dom
フェスティバル/トーキョー０９　秋　Festival/Tokyo 09 Autumn

地獄篇

演出/舞台美術/照明/衣装	ロメオ・カステルッチ　Romeo Castellucci
音楽	スコット・ギボンズ　Scott Gibbons
振付	シンディ・ファン・アッカー、ロメオ・カステルッチ Cindy Van Acker, Romeo Castellucci
舞台美術	ジャコモ・ストラーダ　Giacomo Strada
美術/機械/人工装具	イストヴァン・ジッメルマン、ジョヴァンナ・アモローゾ Istvan Zimmermann, Giovanna Amoroso
オートメーション	ジュゼッペ・コンティーニ　Giuseppe Contini
出演	アレッサンドロ・カフィーソ、マリア・ルイーザ・カンタレッリ、エリア・コルバーラ、シルヴィア・コスタ、サラ・ダル・コルソ、マノーラ・マイヤーニ、ルカ・ナヴァ、ジャンニ・プラッツィ、ステファノ・クエストーリオ、セルジョ・スカルラテッラ、シルバーノ・ヴォルトリーナ

Alessandro Cafiso, Maria Luisa Cantarelli, Elia Corbara, Silvia Costa, Sara Dal Corso, Manola Maiani, Luca Nava, Gianni Plazzi, Stefano Questorio, Sergio Scarlatella, Silvano Voltolina
および　現地エキストラ 50 名

煉獄編

演出/舞台美術/照明/衣装	ロメオ・カステルッチ　Romeo Castellucci
音楽	スコット・ギボンズ　Scott Gibbons
振付	シンディ・ファン・アッカー、ロメオ・カステルッチ Cindy Van Acker, Romeo Castellucci
舞台美術	ジャコモ・ストラーダ　Giacomo Strada
美術/機械/人工装具	イストヴァン・ジッメルマン、ジョヴァンナ・アモローゾ Istvan Zimmermann, Giovanna Amoroso
オートメーション	ジュゼッペ・コンティーニ　Giuseppe Contini
映像	ZAPRUDER filmmakersgroup
出演	第一星：イレーナ・ラドマノヴィッチ Irena Radmanovic 第二星：ピエル・パオロ・ジッメルマン　Pier Paolo Zimmerman 第三星：セルジョ・スカルラテッラ Sergio Scarlatella 第三星 II：ユリ・ロヴェラート Juri Roverato 第二星 II：ダヴィデ・サヴォラーニ　Davide Savorani

天国篇

演出/舞台美術/照明/衣装	ロメオ・カステルッチ　Romeo Castellucci
音楽	スコット・ギボンズ　Scott Gibbons
舞台美術	ジャコモ・ストラーダ Giacomo Strada
美術/機械/人工装具	イスタヴァン・ジッメルマン、ジョヴァンナ・アモローゾ Istvan Zimmermann, Giovanna Amoroso
出演：	ダリオ・ボルドリーニ、ディエゴ・ドンナ、ミケランジェロ・ミッコリス、ノルマ・サンティ、イレネ・トゥッリ Dario Boldrini, Diego Donna, Michelangelo Miccolis, Norma Santi, Irene Turri

『神曲』制作・マネジメント：

制作統括	コゼッタ・ニコリーニ　Cosetta Nicolini
制作	ジルダ・ビアジーニ、シルヴィア・ボッティローリ、ベネデッタ・ブリリア Gilda Biasini, Silvia Bottiroli, Benedetta Briglia
制作補	アルバ・ペドリーニ　Alba Pedrini
管理	シモーナ・バルデュッチ、エリーザ・ブルーノ、ミケーラ・メドリ Simona Barducci, Elisa Bruno, Michela Medri
コンサルタント・プラニング	マツィミリアーノ・コーリ、SKUPA　Massimiliano Coli, SKUPA srl

東京公演スタッフ/クレジット

地獄篇

舞台監督	中原和彦　Kazuhiko Nakahara
照明コーディネーター	佐々木真喜子（(株) ファクター）Makiko Sasaki　(Factor)
音響コーディネーター	相川晶（サウンドウィーズ）　Akira Aikawa (Sound Weeds)
演出部	鈴木康郎　Koro Suzuki、佐藤恵 Megumi Sato、ラング
特別協力	イタリア文化会館　Istituto Italiano di Cultura
後援	イタリア大使館　Ambasciata d'Italia a Tokyo
共催	東京芸術劇場（財団法人東京都歴史文化財団） Tokyo Metropolitan Art Space (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
共同製作・主催	フェスティバル/トーキョー　Festival/Tokyo

煉獄篇

特別協力	イタリア文化会館　Istituto Italiano di Cultura
後援	イタリア大使館　Ambasciata d'Italia a Tokyo
主催	財団法人せたがや文化財団、フェスティバル/トーキョー SETAGAYA ARTS FOUNDATION, Festival/Tokyo

天国篇

舞台監督	寅川英司＋鴉屋、佐藤恵 Eiji Torakawa+Karasuya, Megumi Sato
照明コーディネーター	佐々木真喜子（(株) ファクター）Makiko Sasaki　(Factor)
音響コーディネーター	相川晶（サウンドウィーズ）　Akira Aikawa (Sound Weeds)
特別協力	イタリア文化会館　Istituto Italiano di Cultura
後援	イタリア大使館　Ambasciata d'Italia a Tokyo
主催	フェスティバル/トーキョー　Festival/Tokyo

『神曲ー地獄篇／煉獄篇／天国篇』 三部作セット券

※予定セット数完売次第受付終了となります。

料金　12,000 円

前売開始　2009 年 10 月 8 日（木）

お取扱い
○F/Tチケットセンター　03-5961-5209（12:00-19:00）
※前売開始日 10/8（木）のみ 10：00 より受付
○世田谷パブリックシアターチケットセンター　03-5432-1515(10:00-19:00)

地獄篇・公演情報

会場　東京芸術劇場　中ホール
（東京都豊島区西池袋 1-8-1　TEL03-5391-2111）

公演スケジュール

12/11(金)	12/12(土)	12/13(日)
開演時間は決定次第、HP 等で発表		

上演時間　90 分（休憩なし）

上演言語　英語（日本語字幕つき）

地獄篇・チケット情報（単券）

料金　指定席
一般 S 席　6,500 円　A 席　5,000 円
学生　3,000 円／高校生以下　1,000 円　（A 席のみ・要学生証提示）

前売開始　2009 年 10 月 18 日（日）

お取扱い
○F/Tチケットセンター　03-5961-5209（12:00-19:00）
※前売開始日 10/18（日）のみ 10：00 より受付
○F/Tオンラインチケット（要事前登録・無料）
http://festival-tokyo.jp/（パソコン）　http://festival-tokyo.jp/m/（携帯）
※モバイルサイトは 9 月より開設予定
○F/Tステーション（東京芸術劇場前）　※10 月後半より取扱い予定
電子チケットぴあ　0570-02-9999
（Pコード予約:397－087）　http://pia.jp/t/
○イープラス　http://eplus.jp/ft09/　（パソコン・携帯）

＊ 回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

煉獄篇・公演情報

会場　　世田谷パブリックシアター
（東京都世田谷区太子堂 4-1- 1　TEL 03-5432-1526（代表））

公演スケジュール

12/19(土)	12/20(日)	12/21(月)
開演時間は決定次第、HP 等で発表予定		

上演時間　　75 分（休憩なし）
上演言語　　英語（日本語字幕つき）

煉獄篇・チケット情報（単券）

料金　　指定席
S 席　6,500 円　他

前売開始　　2009 年 10 月 18 日（日）

お取扱い　　○世田谷パブリックシアターチケットセンター　03-5432-1515(10:00-19:00)
○F/Tチケットセンター　03-5961-5209（12:00-19:00）
※前売開始日 10/18（日）のみ 10：00 より受付
○F/Tオンラインチケット（要事前登録・無料）
http://festival-tokyo.jp/（パソコン）
http://festival-tokyo.jp/m/（携帯）
※モバイルサイトは 9 月より開設予定
○F/Tステーション（東京芸術劇場前）
※10 月後半より取扱い予定
○電子チケットぴあ　0570-02-9999
（Pコード予約:397－088）　http://pia.jp/t/
○イープラス　http://eplus.jp/ft09/　（パソコン・携帯）

＊　回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

天国篇・公演情報

会場　　にしすがも創造舎
（東京都豊島区西巣鴨 4-9-1　TEL03-5961-5202）

公演スケジュール

12/17 (木)	12/18 （金）	12/19 （土）	12/20 （日）	12/21 （月）
15：00〜17：30 / 19：00〜21：30				

※本作品は展示形式のパフォーマンスです。鑑賞時間は個々のお客様によって異なりますが、1 分〜5 分程度（待ち時間は除く）が目安となります。
※演出意図により展示空間で同時に鑑賞できる人数を制限いたしますので、事前予約をお勧めします。
※当日券のお客様は、混雑状況によってご入場頂けない、あるいは長時間お待ち頂く場合がございますので予めご了承ください。

天国篇・チケット情報（単券）

料金　　展示形式　一般・学生共通　500 円

前売開始　　2009 年 10 月 18 日（日）

お取扱い　　○F/Tチケットセンター　03-5961-5209（12:00-19:00）
※前売開始日 10/18（日）のみ 10：00 より受付
○F/Tオンラインチケット（要事前登録・無料）
http://festival-tokyo.jp/（パソコン）
http://festival-tokyo.jp/m/（携帯）
※モバイルサイトは 9 月より開設予定
○F/Tステーション（東京芸術劇場前）
※10 月後半より取扱い予定

＊　回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

写真/クレジット一覧

『地獄篇』 © LUCA DEL PIA

『地獄篇』 © LUCA DEL PIA

『煉獄篇』 © LUCA DEL PIA

『煉獄篇』 © LUCA DEL PIA

『天国篇』＊クレジットなし

ロメオ・カステルッチ　ポートレイト
© Socìetas Raffaello Sanzio

・ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。
・原則、トリミングおよび加工は不可。